

第3回 鹿児島駅周辺土地利用検討委員会 概要

日 時：平成24年2月3日（金） 14時30分～15時30分

場 所：鹿児島市役所 東別館9階 特別中会議室

出席者：【委員】宮廻委員、北崎委員、多々良委員、林川委員、江良委員、東川委員、堀之内委員、白男川委員、内村委員、鮫島委員、春山委員、西川委員（計12名）

※委員長が必要と認める委員以外の者の出席（砂田氏）1名

【事務局】都市計画部参事（市街地まちづくり推進課長）、市街地まちづくり推進課主幹、同課職員2名

会次第：

1 開会

2 あいさつ

3 議事

○鹿児島駅周辺土地利用の基本的な考え方（素案）

4 意見交換、質疑・応答 ※主な意見は以下のとおり。「→」は事務局。

- ・鹿児島駅周辺は昔とても賑わっていた。往時の賑わいを復活させるのは、すぐには難しいかもしれないが、時代が大きく変わった中で鹿児島中央駅とは違う鹿児島駅周辺の良さを創っていったらよい。
- ・「緑」を特色とする土地利用の方向性は、周辺の多賀山等の自然とも繋がり、中央駅との差別化が図れる。
- ・磯地区が世界文化遺産登録されると交通規制等が発生する可能性があるため、鹿児島駅周辺での駐車場機能は重要になるのではないかと。
- ・地元意見交換会は、町内会長・通り会会長以外の住民の意見をどの程度反映しているのか。

→地元意見交換会は、町内会長・通り会会長のほか地域まちづくり団体等を対象に実施しており、概ね同様の意見であった。また、今後、土地利用の基本構想、基本計画をまとめる段階でパブリックコメント等により広く意見を伺う予定。

- ・物産施設は常設になるのか。

→常設、施設内容を含めて平成24年度以降に検討予定。

- ・浜町1番5の土地利用がなされることにより、地域住民や商店街にとってはツールを得たことになる。今後、できたものを、商業や歴史・芸能・文化等にどのように生かすかという仕掛けをつくらないといけない。ただ、できただけではなく、各々が考えるきっかけになる事が一番よい。
- ・地域住民や商店街が、ここに集まってくる人を周辺に回遊させて効果を波及させ

る仕組みや仕掛けづくりを考えないといけない。

- ・ハードを整備してもソフトの部分が中々ついていかないことが多い。施設が自分達のところとどのように繋がるのか、ハード部分の検討を進める中でソフト面も一緒に検討する方が、おそらく住民も使いやすいし、喜ばれるのではないか。
- ・北側の地域住民は、ここの土地利用に対して当事者意識が薄く、リアクションがあまりなかった。地域のまちづくり活動や町内会、通り会の活動が、どのようにプロジェクトに関わるのかを明確化したらよいと思う。
- ・地元意見交換会で、和泉屋町踏切や国道 10 号北バイパスなど交通施策に関する話題が出たが、道路機能とか駐車場・バス停・交通機能を重視するあまりに、まちが非常に冷たい感じに仕上がるのが今の日本のまちづくりであると感じる。
- ・離島、桜島に通じる鹿児島県の北の中核、城下の中核であったという歴史的背景を生かし、しっかり腰をすえたまちづくりをデザインして住民に見せていくとよい。
- ・よその都市にはない、「鹿児島」「上町」ならではの風情を明快に打ち出し、それに対して住民と意見を交わすなどチャレンジ的なまちづくりをしてほしい。

7 その他

- ・平成 24 年度以降に基本構想、基本計画を検討予定。

8 閉会

以上